

対話を重視した授業改革と



ICTの有効活用についてvol.6 ～教室の隅々まで授業改革を～



「対話を重視した授業改革とICTの有効活用について」vol. 6の事例のポイントは、特別支援教育において、個別の教育支援計画を活用し、児童生徒の個別の実態に応じたICT活用や対話の場面を設定している点です。

石狩管内における対話を重視した授業改革とICTの有効活用の実践事例

千歳市立泉沢小学校 第5・6学年 国語



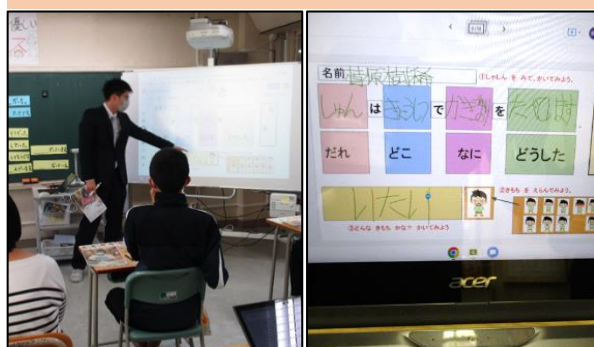
電子黒板で作文を共有し、内容について、友達と対話する場面を設定しました。児童が友達に疑問に感じたことを質問したり、作文の内容について説明したりすることができました。

江別市立野幌若葉小学校 第2学年 国語



電子黒板に表示したイラストの中から、児童が選んだイラストの名前を説明しながら平仮名の学習をしました。教師と対話しながら平仮名の読み方を確認し、語彙を豊かにすることができました。

千歳市立北進中学校 第3学年 国語



前時までの学習場面をICTを活用して静止画で振り返り、その場面における心情や行動を共同編集機能を活用し、お互いに感想を書き込むなど、対話を通して、多様な考えに触れることができました。

北海道真駒内養護学校
高等部第3学年 自立活動



視線を安定させる位置に、教材を示すなど、生徒の実態に応じてICTの活用を工夫しました。意欲的に学習に向かう時間が増えるとともに、オンラインでの対話を通じて考えを広げたり深めたりすることができていました。

【担当から】

今回紹介した4校は、個別の教育支援計画を活用し、児童生徒の実態に応じてICTを活用したり、対話の場面を設定したりすることにより、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成を図ることができていた事例です。特別支援教育においても、子どもの資質・能力を確実に育成するために、対話を重視し、ICTを活用した授業改革を推進しましょう。

(義務教育指導班主任指導主事 特別支援教育SV 清水 拓海)